

# 自分の障害をオープンに

## — 職場の皆さんに感謝の気持ちを込めて —

わたなべ みか  
渡邊 美夏

私は 35 歳の時に若年性パーキンソン病と診断されました。若年性パーキンソン病は、発症年齢が低いほど闘病生活は長く、進行性ゆえに将来に対する不安が大きい病気です。仕事や子育てや、先が見えない自分の体とどのように向き合い生活してゆくか不安でしたが、近年、障害者が就労をしやすい環境になっていることを知りました。仕事を探す事や勤務を続ける事は、大変な場合もありますが、障害者が仕事をしやすい社会にするための法律が新たに定められ、企業でも障害者の仕事をサポートする制度を設け、障害者雇用が増加し、また障害者が働きやすい環境づくりを促しています。

そのなかで、障害者の仕事探しや就労する際に、皆様に覚えて頂きたい言葉があります。それはオープンとクローズという言葉です。自分の障害を勤務先に公開することをオープン就労といいます。公開しないことをクローズ就労と言います。私は自分の病気を伝え、オープンして働いています。職場は駿台甲府小学校の学童保育で、今年の5月から支援員として働いています。雇用契約は、障害者雇用。

駿台甲府小学校の学童は1年生から6年生まで利用しており、大勢の児童をお預かりしています。仕事をするにあたって私は、自分の病気の事を伝え、自分の今の症状や出来ること出来ないことを学校と支援員の先生方に伝えました。また、障害がある私を子供達にどのように伝え、理解してもらえるにはどうすればいいのか、支援員の先生方と話し合いました。話し合いの結果、美夏先生紹介カードを配付したり、首にかける名札にヘルプマークを印字したりして理解して頂こう、ということになりました。今では、私が掃除をしていると「先生手伝うよ」と児童が声をかけてくれます。

支援員の先生方は、体のことを気遣って、「体がつらくなったら座ってくださいね」と、声をかけてくれます。

また、学校の配慮もあり「渡邊さんが本校で安全に仕事できるよう環境作りをした」と、障害者雇用支援ならびにアドバイザー業務を行っているコンサルティング株式会社「セルム」さんを紹介していただきました。セルムの担当者の方とは初めはリモートで面談し、入社時に配慮を希望したことの確認をしました。2回目の面談では仕事で困っている事や難しいと感じる事、改めて配慮してほしい事の確認、3回目は、管理者側の認識、今後の対応の確認をしました。そしてその後、セルムさんが主催で学校と支援員の先生方へ、私の病気と障害についての勉強会を開いていただきました。その勉強会后、「とても勉強になりました」「障害で知らないことがよく分かりました」など、声をかけて下さる方もいて、私は感謝の気持ちでいっぱいになりました。

その後もセルムさんとは月1回の面談の中で、私自身のセルフケアを増やしていくための様々なアドバイスをしていただいております。

自分の病気や障害をオープンする事によって、理解していただき、障害への合理的配慮を受け、働きやすい環境を作っていただき、常に寄り添い見守ってくださる、駿台甲府小学校の教職員の方々、支援員の先生方に感謝し、今、自分にできる仕事を一生懸命頑張っていきたいと思います。障害者でも無理なく仕事ができるような社会が広がる事を願います。